

「第2回電子デバイスフォーラム京都」開催のお知らせ
～ 一大飛躍の時を迎えた電子デバイスの全貌を世界に発信！！～
～ 日本電子デバイス産業協会が総力をあげて11/12～11/13の2日間～

一般社団法人日本電子デバイス産業協会(代表理事・会長：齋藤昇三/以下、NEDIA)は、西日本最大級の「第2回電子デバイスフォーラム京都」を、2015年11月12日(木)～13日(金)の2日間、京都リサーチパークで開催します。昨年10月30日、31日に第1回を開催しましたが、延900名の参加者を得て盛り上がり是非継続して欲しいとの要望もあり、第2回を会場及びセッション数を拡大して開催することになりました。

半導体を始めとした電子デバイスは、パソコン、テレビ、スマートフォン等のIT機器を最大の出口として成長して来た後、ここ数年においてはスマートフォンを除き停滞して来ておりますが、新しい成長分野としてCPS(Cyber-Physical System)/IoT(Internet of Things)の具体化が近づいており、それを現実させる電子デバイスは一大飛躍の時期を迎えています。こういった状況の中で、基調講演・マーケットセミナーで電子デバイス全体のテーマを発信するとともに、次世代自動車、エネルギー革新を引き起こす電子材料、電子部品から見たIoT/M2M機器に3テーマにフォーカスして、応用分野の動向、それに使われる電子デバイスの将来の方向及び情報を発信していきます。

① 京都企業の強い一般電子部品を含め電子デバイス全体を発信

電子デバイスの範疇は、半導体、液晶、一般電子部品が主要なジャンルですが、この中で一般電子部品は、抵抗、コンデンサ、トランスなどの受動部品、スイッチ、コネクタなどの接続部品、プリント配線板、電源、センサー類など半導体、液晶を除くほぼすべてのアイテムを含んでいます。一般電子部品はスマートフォン、白物家電、自動車分野を中心として市場が伸びており、日本企業のシェアも40%強と高く、日本企業の強い分野です。川上の材料・装置から川下のアプリケーションまで含む幅広い分野で横断的戦略組織を目指すNEDIAにとって一般電子部品は重要な分野であり、本フォーラムでも各セミナーの分野でそれぞれ取り上げています。一般電子部品においては京都企業の活躍が目立ち、積層セラミックコンデンサの(株)村田製作所、マイクロモータの日本電産(株)、パッケージ部品の京セラ(株)、MEMSのオムロン(株)が世界トップを走っており、半導体及び一般電子部品の両方を扱うローム(株)もまた世界レベルで活躍を見せています。こういった電子部品を中心とした有力企業の集積する京都において本フォーラムを昨年に引き続き開催していきます。

基調講演、マーケットセミナーで電子デバイス全体にわたった講演を予定しています。

基調講演では、宇宙開発分野の国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)、フラットパネルディスプレイに強い中国BOE社、半導体製造装置の有力企業の(株)SCREEN セミコンダクターソリューションズ、IoT/CPS社会に関して(株)東芝、

マーケットセミナーでは、中国IT企業の成功要因、転換期を迎える世界半導体産業、業績好調の電子部品メーカーの状況、設備投資が活況の電子デバイスと電子デバイス分野全体を俯瞰する8件の興味あるテーマを準備しています。

② 次世代自動車／エネルギー革新を引き起こす電子材料／電子部品から見たIoT/M2M 機器の3 分野が テーマ

「第2 回電子デバイスフォーラム京都」のプログラムは、現在注目されている分野にフォーカスし「次世代自動車」エネルギー革新を引き起こす電子材料「電子部品から見たIoT/M2M 機器」の3 つの注目分野をテーマにして、電子デバイスの将来性を技術面、マーケット面の両面から追求しています。

「次世代自動車」コースは、ITS を支える自動運転技術、次世代自動車におけるバッテリー/モータの進化、次世代自動車を導く次世代パワー半導体を3 つの柱とし、自動運転、バッテリー/モータ、パワー半導体に焦点を絞り、自動車メーカーや電装メーカー、パワー半導体メーカーに最先端の情報を発信していただきます。

「エネルギー革新を引き起こす電子材料」コースは、水素エネルギー、省エネ、環境発電を3 つの柱として、大学、ガス会社、パワー半導体・電子部品メーカー、地方自治体等に最新の取り組みについて発信していた大学、ガス会社、パワー半導体・電子部品メーカー、地方自治体等に最新の取り組みについて発信していただきます。

「電子部品から見たIoT/M2M 機器」コースは、今話題となっているIoT/ M2M を中心に、革新を支える電子部品、センサー技術、先端材料・デバイスについて、IoT/M2M に関する具 体的分野及び新材料及びその応用等につき新しい動向を紹介します。

特別セッションとして、産学連携の観点からナノテクノロジープラットフォームを取り上げ、また初心者及び半導体を知りたい方のための半導体基礎講座を設置し、さらに今回は最新電子デバイス製造技術を追加し、全体レビュー、一般電子部品、実装技術について解説します。

また、本フォーラムに関連した展示ブースにおいて、企業、団体、大学等の具体的なテーマをPRする場を設けます。

③ 京都企業のトップを集め、強力な布陣で実施

本フォーラムを推進するために強力な布陣で推進しています。

「組織委員会」は、委員長を齋藤昇三NEDIA代表理事・会長(株)東芝常任顧問)が務め、副委員長は(株)村田製作所の村田恒夫代表取締役社長、(株)堀場製作所の堀場厚代表取締役会長兼社長、ローム(株)の澤村諭代表取締役社長及び(株)SCREEN セミコンダクターソリューションズの須原忠浩代表取締役社長と4副委員長とも京都企業のトップという構成です。

「実行委員会」は委員長を泉谷渉NEDIA 理事・副会長(株)産業タイムズ社代表取締役社長)「プログラム委員会」は中村孝NEDIA 理事(ローム(株)研究開発部長)、「展博委員会」は佐藤和樹NEDIA理事・副会長(インターテック(株)代表取締役社長)が任にあたっています。

経済産業省近畿経済産業局、京都府、京都市、SEMI ジャパンに後援、IEEE 関西支部に協賛、電子デバイス産業新聞(株)産業タイムズ社)の特別協力を得て、本フォーラムを開催して行きます。

後援いただいている京都府の山田啓二知事、京都市の門川大作市長に來賓ご挨拶をしていただく予定です。

□全体プログラムは2 日間にわたり7 会場において17 セッションで49 の講演が組まれており、1,000 人以上の動員を目標にしています。(第1 回は5 会場、14 セッション、38 講演、延参加者900 人) 参加費は1セッション15,000 円、1Day パス23,000 円、2Day パス40,000 円で、NEDIA 会員、大学 教職員は割引があり、学生は2,000 円から参加可能となっております。

また、9 月30 日までは早割を 設けており、早めの申し込みに便宜を図っています。また、小規模ではありますが、セミナーに加え展示スペースも設けてあります。無料で参加できる大学セッションもあり「ナノテクノロジープラットフォームと産学連携」をテーマ にしています。

□昨年に引き続いての「第 2回電子デバイスフォーラム京都」の趣旨をご理解いただき、御社の媒体にて報道いただきたくお願い申し上げます。(NEDIA 関係者への直接取材も受け付けております)

<「第2 回電子デバイスフォーラム京都」専用ホームページ>

URL : <http://www.nedia.or.jp/ddf2015/>